

- ◆実践校名 大東市立南郷中学校、大東市立住道中学校、守口市立第一中学校、寝屋川市立中木田中学校
- ◆主題名「規則の意義」 道徳の内容 C－遵法精神、公德心
- ◆ねらい 法やきまりを守ることが、自分たちの権利や生活の中で大切にしているものを守ることに気づかせ、自分や周りの人のためにも遵守しようとする意欲を育てる。

◎ 中心的な発問

元さんが、「この年になって初めて考えさせられたこと」とは何だったのだろう。

◆ 本時の展開

	学習活動	発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点及び評価
導入	道徳的価値への動機付け	「ルール」と板書する。 「身の周りのきまりやルールにはどんなものがあるのだろう。」 ◇校則 ◇交通ルール ◇法律 ◇スポーツのルール ◇クラスのきまり	○ねらいとする価値への動機付け。 ○自由な発言をうながす。 ○導入は5分以内で行う。
展開	資料範読 発問①	資料を読む。 簡単に内容を振り返る。 ○主人公『元さん』はどんな人だろうか。 ➤ 独り身 ➤ 仕事が生きがい ➤ やさしい ➤ 誠実さがある <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">元さんはどうして規則を破ってまで姉弟を入園させたのだろうか。</div> ➤ 弟を思う姉の気持ちを大切にしたい。 ➤ 入園できないのはかわいそうだ。 ➤ 少くらいなら大丈夫だろう。 ➤ 誕生日だし、今日だけは特別に許そう。 ➤ 理由(事情)があるから仕方ない。	○教師が範読する。(約12分) ○あとの発問につなげるように、元さんの人柄をしっかりとっておきしておく。 ○元さんの行動(入園させた)をとったときの思いや葛藤を自由に表現させる。 あとの後悔につながるよう、安易な判断や情に流された気持ちを引き出す。
閉			

	<p>発問②</p> <p>中心発問</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>事務所の中で連絡を待つ元さんは、 どんな気持ちだったのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 早く二人がみつかってほしい。 ➤ けがなどしていないか心配。 ➤ どうか無事でいてほしいと祈る。 ➤ やっぱり悪いことをしてしまった。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>元さんが「この年になって初めて考 えさせられたこと」とは何だろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 規則の意味を深く考えることができた。 ➤ 軽い気持ちで規則を破ったことが大変な事態を招くこと。 ➤ 事故や誘拐でもされていたら、とんでもないことになっていた。 ➤ 結局は多くの人に迷惑をかけた。 ➤ 規則には意味があることを知った。 ➤ 規則は人を守るためにあるのだとわかった。 ➤ 処分通告であらためて自分の過ちを確認できた。 ➤ 少しくらい・・・という甘い気持ちがだめだった。 ➤ 注意だけでなく、きちんと処分がでたことで、今後同じ失敗が繰り返されない。 	<p>○元さんの不安な気持ち、祈るような気持ち、心の揺れに焦点を当てながら、元さんの問題点に気づかせる。</p> <p>○二通の手紙【母親からの手紙】【処分通告】の意味をしっかりと考えさせる。</p> <p>*元さんの行為を正当化するような意見に傾いたときは、「元さんは姉弟を入園させてよかったと思っているだろうか」と切り返す。</p> <p><u>押さえておきたいところ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 失望の色はない。 ◆ 晴れ晴れとした顔で、片付け・・・ <p>○規則を守ることを意味を深く考えさせ、同情が許されない社会の規律があることに気づかせる。</p> <p>*「処分がでたことについて、元さんはどう思っていたらう」という揺さぶり発問をする。</p>
<p>終</p> <p>末</p>	<p>まとめ ワークシート 記入</p> <p>感想・振り返り記入する、 時間があれば意見交流する。</p>	<p>きまりがなかったらどうなるのだろうか。 あなたの考えをまとめてみよう。</p>	<p>○振り返る時間を5分程度は確保する。</p> <p>○深められた価値について押しつけにならないよう、実践への強要はしない。</p> <p>○身の回りにある「きまり」や「ルール」は何のためにあるのか、じっくり考えさせるように促す。</p>

◆評価 規則の意義や必要性について考えることができたか。(中心発問や振り返りでの記録や発言)

◆研究のまとめ

○授業実践について、チームとしてのまとめ

《成果》

- ・約8割程度の生徒が「規則の意義」を意識した感想を書いており、ねらいにせまることができていたことがわかる。

《課題》

- ・数名は元さんのように自分を犠牲にしてもよい行い（思いやりのある行動）も時には必要ではないかと感想に書いている生徒もおり、この資料のねらいを伝えるための振り返りが再度必要だと感じた。
- ・中心発問後の生徒の意見や考えに対し、それを否定しないよう、また押し付けにならないように切り返し、深めていくための追発問を考えることが必要。
- ・ねらいと合っていない生徒の評価はどうしていくべきか。
- ・関心意欲に重きを置くべきか、ねらいにせまっているかそうでないかで評価するのか。
- ・生徒の感想を生徒の道徳的価値の現状を知る材料にする。

○道徳の評価についての提言

- ・道徳の授業の中でのねらいに迫ることができなくても、その物語や読み物教材を通して考えることができているならば評価に値するのではないか。（関心・意欲・態度）
- ・ねらいに迫ることができたか否かは自己評価等でもつけることができる。
- ・感想＋自己評価(S～C)、自己評価の理由をチェックすることで道徳全体の評価をする。
- ・道徳の評価で重要なのは、その授業の内容項目に迫れているかを評価することである。またその場の評価だけではなく、日常の行動で、道徳で学習したことが実践でき、深めているかである。ただし、行動の変容のみを道徳の評価とするのは好ましくない。

自己評価→内容項目に迫ったか

教材の中での発見→関心・意欲・態度

新たな行動に繋げる→個人内評価

授業者も内容項目に沿った中心発問やワークシートを用意し、授業の質も上げていくことが重要である。

【各校での実践の記録】

◆実施学年（1年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

- ・ 「元さんが『この年になって初めて考えさせられたこと』とはなんだろうか」という中心発問に対して、8割近くの生徒が「規則を破り無責任な判断をした」ということに触れて書くことができていた。

<支援>

- ★ キーワードを出せた生徒、ねらいに迫ることができていた生徒のワークシートに赤でチェックをいれ「この言葉いいね」と伝えていった。

- ・ およそ1割程度の生徒が、自分の意見を持って手を止めている様子があった。

<支援>

- ★ 「自分のとった行動で・・・」という書き出しで始めてみようという声かけをして、自分の意見を書かせるように促した。

- ★ 机間指導の中で、個別承認として「無責任な判断」「迷惑をかけた」「後悔」「反省」などのキーワードを全体に聞こえるようにほめて、書けない生徒へさりげなく支援をしていった。

- ・ 「迷惑をかけた」という意見まではでるが「規則をやぶったことへの後悔」にまで行かない生徒が1割程度いた。

<支援>

- ★ 「迷惑をかけた」だからどうなの？という問いかけを個別に行った。

- ★ 「新たな出発」ってどういうことだと思う？という揺さぶりをかけた。

○成果と課題

- ・ 感想文では約8割程度の生徒が「規則の意義」を意識した文章であり、ねらいにせまることができていたことがわかる。
- ・ しかし数名は「元さんのように自分を犠牲にしてもよい行い（思いやりのある行動）ができるような人になりたい」という感想を書いていた。
- ・ 中心発問にいくまでに時間がかかりすぎ、中心発問の共有に時間不足であったこと。もう少し時間をとって、元さんを肯定する意見をわざと取り上げ「元さんは本当にそれでよかったと思っているかな」という揺さぶり発問をすべきであった。
- ・ おおむねねらいに迫ることができたのは、前の二つの発問でしっかり元さんの行動や心情を押さえることができたからだと感じるが、課題としては中心発問にかける時間をしっかり確保して、より全体で深める時間をとるべきであった。

実践校名（ 大東市立南郷中学校 ）

◆実施学年（3年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

★中心発問の場面の発言の様子や内容から

- ・「ルールを守ること大切だけど人の気持ちを尊重することは大切。」や「解雇処分になったけど子どもやお母さんは喜んでくれたから良かったと思っている。」という意見も数人あり、決まりを破ってでも入れてよかったと考えている生徒にそうでないことを伝える切り返し発問が難しかった。『元さんは規則を破って本当に良かったって思っていたのかな。』という発問に「そうじゃない。」と発言した生徒がいたが、そこから自分の考えを深めさせる支援をすることが必要だと感じた。考えを深める支援に「『良かった』という気持ちは規則を破って良かったという気持ちだったのかな。」や「子どもたちに何かあったら元さんはどんな気持ちだったのかな。」という発問もしてみたが、こちらの考えを押し付けないようにするのが難しいと感じた。
- ・「決まりを破ったら処分されるんだな」という意見もあり、罰せられるから決まりは守らなければならないという意見に対してどう切り返すべきか考えていく必要も感じた。

★振り返りの記述の場面から

- ・「こんな風に入れてあげた方が良かったやろと思ってもそんな小さなことから許していくと、どんどんどんどん少しずつ大きなことまで許すようになっていき、住みにくい環境になっていってしまうと思うから、このようなことでも決まりはしんどいけど守っていかないといけないと思うし、破った人には処分は必要だと思う。」という感想を書してくれた生徒がいた。決まりは自分たちを守るためにあることを感じてくれた生徒もいる中、「元さんは、子どものことを想う善意で行動したけど、大きなグループに規則がある以上はどんな理由であれ、「違反」になるんだなと思いました。でも、全てを規則という無機質なもので動かしてしまうと、人の心の温かさまで失くしてしまうんじゃないかなと思いました。」と感じている生徒もおり、この資料のねらいを伝えるための振り返りが再度必要だと感じた。

○成果と課題

- ・中心発問後の生徒の意見や考えに対し、それを否定しないよう、また押し付けにならないように切り替えし、深めていくための発問を考えることが必要だと感じた。ルールを守することは大事。でも、それは罰せられるから守らなければならないのではなく、どうしてルールがあるのかを考えられるようにこちらのアプローチの仕方も考えていく必要を感じた。

◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）

二通の手紙

道徳 感想文

（ ）組 名前（ ）

Free Space

★今日の道徳で、あなたはどんなことを感じ（考え）ましたか？

自己評価：今日の授業を振り返ってあてはまるものに○をつけよう。

S（主題がわかって、今後の生活に活かしていこうと意欲がわいた。）

A（主題がわかって、感想文がしっかり書けた。）

B（教材に対してしっかり感想が持てた。）

C（感想をしっかり持つことができなかった。）

◆参考資料

わたしたちの道徳

実践校名（ 大東市立住道中学校 ）

◆実施学年（3年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

二通の手紙

○中心発問の「元さんがこの年になって初めて考えさせられたこととは何だろう。」では、

- ・自分の判断だけではいけない。ルール の 在り方 や 必要性 が 改めて わかった。
- ・決まりやルールは自分や人を守るためにあるものである。
- ・目先のことだけではなく周りのことも考え、最悪のこと も 考え なくては ならない。
- ・子供は喜んだけど、もし事故や誘拐などがあつたらと思うと怖い。

など決まりについては一定の理解があつた。

○元さんについて批判的な意見が集中したことが予想外であつた。中学一年生というところからなのか、元さんの人情などの肯定的な意見がほとんどなく終わってしまったのが深めることができなかった要因のひとつであると学年では捉えている。

○成果と課題

振り返りの感想などでは一定の評価ができるが、自己評価については実施できなかった。また感想の中では実際に違うものに例えて、ルールとは・・・と書いている生徒も見受けられた。道徳で得た知識や考え方などを、日常生活に生かしていこうという動きに関しても一定の評価ができるのではないかと感じた。

感想文に関しては、学年通信に記載することと、廊下の一角に掲示することで、考え方の共有と学習をさらに深めることを期待している。

◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）

道徳ワークシート

「二通の手紙」

◎元さんが「この年になって初めて考えさせられたこと」とは何だろう。



授業を振り返って感想を書きましょう。

規則やルールはなぜあるのでしょうか？

元さんを通じてどんなことを学びましたか。



◆実施学年（1年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

振り返りで

「もし規則とかなかったら信号無視とかいろいろ危ないこととか理不尽なこととかおこるから」というような意見が多かったので、『人のことを思いやる気持ち』があっても規則を破るということはいけないという方へ持っていくように揺さぶりの発問をしたら、『破ってもいい規則もある』『絶対にあかん』など意見が広がり良かった。

○成果と課題

中心発問の場面

「職を失うことで、これからの生活を心配する」という内容を答える生徒が多かったクラスや「ルールを守ることの難しさ」を答える生徒が多かったクラスがあったりした。指導案では【押さえておきたいところ】ということで話がそれでも修正できるようになっていたが、授業者の解釈や力量によってクラスで全く違う方向へ行ってしまうことがあると感じた。教師同士での教材研究の必要性を感じた。また、授業者の力量により左右される中では、生徒の発言の内容で評価するということが難しいのではないかと感じた。

ワークシートでは、自分の考えや想いを文章で書くことが苦手な生徒が、一生懸命に書いているということ自体が素晴らしいのでそれを評価したい。

◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）

中心発問で

*自分が良いことをしたと思っても、ルールということから考えると、悪い結果になってしまったりすることがあるからとても難しいものだと思った。

振り返りで

*元さんが首になったのは残念。でも、ルールを守らなかったら事故とかにつながることもあるので仕方ない。

実践校名（ 寝屋川市中木田中学校 ）